

宇都宮市立海道小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動を行っている。」と回答した児童の割合は78.1%で県と比べて10.8ポイント高い。学力アッププロジェクトとして「授業の終わりに必ず振り返りの時間をとる」ことを行ってきた成果であると考えられる。「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」の児童の割合は84.4%で県と同程度であり、今後、100%に近づくように毎日の授業で実践していきたい。

○1日当たりの勉強時間(平日)で1時間以上と答えた児童の割合は46.8%で県と同程度であり、休日の児童の割合は62.5%で県と比べて12.9ポイント高い。また、「学校の宿題は、自分のためになっている。」と回答した児童の割合が100%だった。保護者会で宿題と自主学習のちがいを伝え、休日でも自主学習を行わせることを保護者と連携して行ってきたこと、学習した結果が出るような宿題を工夫したことが成果となって表れた。

「疑問に思ったこと、不思議に思ったことは分かるまで調べたい」と回答した児童の割合は75.0%で県と比べて8.5ポイント高い。今後は一人一人の児童がもっている知的好奇心や追求意欲を生かせる宿題を工夫していきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」と回答した児童の割合は46.9%で県と比べて9.6ポイント低い。また、「自分には、よいところがある。」と回答した児童の割合は62.5%で県と比べて15.7ポイント低い。

個々の児童の得意にしているものをつかみ、学校や学級で力を発揮できる場を設定し、自己有用感を味わわせていく。また、児童をほめて伸ばすことに力を注ぎ、自信を付けさせていく。

●「平日に3時間以上テレビを見ている」と答えた児童の割合は34.4%で県と比べて4.9ポイント高い。また、「平日に3時間以上ゲームをしている」と答えた児童の割合は21.9%で県と比べて7.3ポイント高い。

情報モラルの指導を授業の中で行っていく。また、学年便りや保護者会で児童の実態やインターネットを介したゲームの危険性を保護者に伝え、連携して指導に当たる。また、